

Art Basel Hong Kong 2026 のデジタルアートセクター「Zero 10」に選出 √K Contemporary、草野絵美の新作『Ornament Survival』を世界初公開



Ornament Survival - Nursing the Machine (2026)
AI Photography, lenticular print

√K Contemporary（新宿・東京）は Art Basel Hong Kong 2026 の新たなデジタルアートセクター「Zero 10（ゼロ・テン）」に選出され、アーティスト草野絵美による新作インスタレーション『Ornament Survival』を世界初公開する。

本展において草野は、象徴的な立体作品、シングルチャンネル・ビデオ、そして平面作品からなる空間を展開し、日本のアニメーション史における「変身ヒロイン」の図像学を再構築する。生成 AI が「無限の現実」を生成し続ける 2026 年において、かつて少女たちのエンパワーメントを象徴した「変身」という行為は、新たな局面を迎えている。それは、膨大な情報の奔流のなかで、自らが単なる「ノイズ」として埋没することを拒み、固有の「シグナル」として輝き続けるための、切実な生存戦略である。

空間の中央に鎮座するのは、90 年代の変身ヒロインが手にした魔法のコンパクトを想起させる、記念碑的彫刻作品だ。しかし、これは単なるファンタジーの道具ではなく、私たちがアルゴリズムと共振しながら、この複雑な世界において主体性を確保するための羅針盤として機能する。ここでは「カワイイ」や装飾的な要素は、消費されるための記号であることを超え、拡張されたデジタル空間において「個」を確立するための高度なコードとなる。再帰的な生成 AI のプロセスにより増殖する制服姿のクローンは、物理空間とデジタル領域を軽やかに行き来する、新たな身体性の肖像といえる。彼女たちはシステムに支配されるのではなく、システムを纏うことで、この新しい世界を遊泳しているのだ。

『Ornament Survival』は、テクノロジーの進化と呼応して変容する人間の欲望のあり方を提示する。終わりのない最適化のループのなかで、なお強く発光しようとするその姿は、悲劇ではない。それは、アルゴリズムの時代を生き抜くための、美しくも力強いマニフェストである。

■ Artist | 草野絵美 / Emi Kusano (1990 -)



Synthetic Reflection by Emi Kusano (2023)

マルチディシプリナリー・アーティストであり、世界の生成 AI アートシーンを牽引する第一人者の一人。10代で原宿のストリートファッションを記録する写真家としてキャリアを始動し、その初期作品はヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 (V&A) に展示された。ファッションと写真におけるこれらの原体験は、マスメディアがいかに個人の、そして集団のアイデンティティを形成するかという、彼女の視座の礎となっている。

以来、彼女の実践は先端技術を統合する形で進化を遂げてきた。そこでは AI を単なるツールとしてではなく、共創的なパートナーとして位置づけている。このプロセスを通じ、草野はデジタル時代におけるノスタルジア、ポップカルチャー、そして集会的記憶を批評的に探求している。

その作品は、M+ (香港)、サーチ・ギャラリー (ロンドン)、グラン・パレ・イマーシブ (パリ)、フランシスコ・カロリヌム美術館 (リンツ)、金沢 21 世紀美術館など、世界 20 カ国以上の主要機関で展示されている。また、フリーズ・ソウルや Untitled Art Miami といった主要な国際アートフェアにも参加。特筆すべきは、写真的な感性と AI 生成を融合させた代表作シリーズ『Office Ladies』が

「Paris Photo」で特集され、世界的な注目を集めたことである。

2023 年の Gucci とクリスティーズによるオークションや、2024 年のクリスティーズと UNHCR によるチャリティ・オークションへの出品がその象徴である。視覚芸術の枠を超え、音楽ユニット「Satellite Young」の主宰・リードシンガーとしても活動。80 年代 J-POP を現代的な SF のレンズを通して再解釈し、SXSW などの国際的なイベントに出演している。

2025 年には、世界経済フォーラム (ダボス会議) の「ヤング・グローバル・リーダー」に選出された。

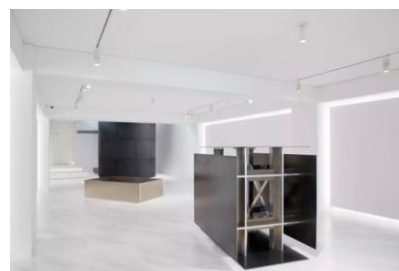
直近では、サイバーパンク・アニメの金字塔『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』とのコラボレーションによるニューヨークでの初個展『Ego in the Shell』を開催し、高い批評的評価を獲得した。アート・バーゼル香港での発表に続き、2026 年 5 月からは東京の√K Contemporary にて大規模な個展の開催を予定している。

Web | <https://www.emikusano.art/> | IG : @emiksn | X : @emikusano

■ √K Contemporary

2020 年 3 月、東京・神楽坂に開廊。世代や国籍、ジャンルの境界を横断する「次世代型コンテンポラリーアートギャラリー」である。

都内有数の規模を誇る約 300 平米・2 フロア構成の展示空間を有し、作品と鑑賞者の関係性を再定義する場として機能する。絵画、彫刻、インスタレーションからデジタルアート、パフォーマンスまで多様なメディアを取り扱い、戦前の巨匠から現代のビジョナリーな作家まで幅広く紹介。美術史を俯瞰しながら過去と現在をつなぐ対話を生み出し、次代の文化形成に寄与することを目指している。



Installation View:
Wall to Wall, Noriyuki Haraguchi, 2020

Web | <https://root-k.jp> | FB : @rootcontemporary | X / IG : @rk_contemporary

For inquiries:

√K Contemporary (Operated by SEI-RIN Co., Ltd.)

Address: 6 Minamicho, Shinjuku-ku, Tokyo | Tel: +81-3-6280-8808 | Email: pr@sei-rin.com | Website: <https://root-k.jp>